



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 380

März 2023

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <https://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE
GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

2022年度を振り返って

NPO法人神戸日独協会会長 柘田 義一

3月18日からマスク着用などコロナ感染防止のための諸制限が大幅に緩和されました。これを受けて社会活動も活発化していますし、感染者数も大幅に減少しています。

神戸日独協会は、2022年度を mit Korona の年と位置づけ感染予防に留意しながら対面形式による行事や授業を導入して、協会活動の活性化を図ってきました。この一年間「会員の皆様と協会のつながり」と「会員の皆様とドイツのつながり」の維持を第一として活動をしてきました。会員の皆様にも活動趣旨をご理解いただき、ご協力をいただきましたことに、厚くお礼を申し上げます。

一年前の会報(Nr.368)の「2021年度を振り返って」において協会財政の困窮化についてご報告しました。困窮化の主要因である「会員減少」と「講座の衰退」をコロナ禍にのみその原因を求めめるのではなく、数年前からのIT技術の急速な発達による情報化社会の進展、社会意識・活動の変容などにも原因を求めて理事会と執行部会では改善を行ってきました。事務所の移転(6月上旬を予定)、ドイツ語講座カリキュラム変更、ホームページ刷新、ツイッター・インスタグラムなどネット環境見直し、クリスマス祝賀会・オクトーバーフェスト・ドイツ時事講演会など伝統行事復活、Stammtisch・談話室など会員活動の定期開催などを行いました。多くの会員の皆様のご理解とご協力をいただいておりますが、コロナ禍による行動自粛、対面形式に代わるネット環境活用の進展などのためか語学・文化教室、会員活動(会報・ホームページを含む)、主催行事などに個別적으로는ご参加いただいておりますが、これら活動間の交流と個人会員登録は極めて少なく、協会全体としての活動と捉えると低調との印象は歪めません。「このような世情の中に参加するだけでも～」とのご意見に対しては非常に有難く思っています。しかし是非とももう一步皆様の「ドイツ好き」「ドイツに対する興味」など「ドイツ」を共通の軸として「会員の皆様とドイツのつながり」「会員皆様の相互交流」を深めていただきたくお願いを申し上げます。

そのためにも協会は理事会・執行部会を中心に協会運営・活動をさらに改善を進めてまいります。この改善は会員皆様の声反映されたものでなければなりません。ご意見をお寄せください。

ドイツ語講座2023年度第 I 期開講

66年の伝統を持つ神戸日独協会ドイツ語講座は2023年度第 I 期を4月4日(火)より開講します。昨年度よりドイツ語講座活性化のためにドイツ語講座のカリキュラムを変更しています。

「入門→初級→中級」と段階的な編成を廃して、これを下記の4つのコース群にしました：

1. 基礎コース（ドイツ語はまったく初めての方のクラス）
2. 一般コース（入門から初級後期へと段階的に会話と講読を学ぶコース）、
3. テーマコース（テーマに基づいて学ぶ初級後期・中級者向けコース）
4. オンラインコース（Zoomによるコース）

各コースの授業内容については、同封のパンフレットをご覧ください。

神戸日独協会は本年6月上旬に磯上公園内（現国際会館より南へほぼ徒歩5分）へ移転予定です。それまでは現在の会議室にて授業を致します。会議室（兼教室）の規模と体裁などはほぼ現状維持の予定です。移転先内装工事及び引越期日が未定ですので、新教室での使用が決まり次第お知らせします。

これまで騒音防止や設備の関係にて中断していた「ドイツ音楽教室」や「ドイツ家庭料理教室」などを新事務所にて復活の予定です。現在担当でクラス内容の調整をしています。復活にあたりご希望がありましたら、是非ともご意見をお寄せください。7月からの第 II 期より開講の予定です。

この4月をコロナ禍後の新年度と捉え心機一転して、ドイツ語に挑んで楽しみましょう。奮ってのご参加をお待ちしています。

Stammtisch mit Wein と月例懇談会の名称・内容と開催日時

および会報発行日の変更について

これまで会員相互の交流のために「会員による Stammtisch」「会長の Stammtisch」を継承して「Stammtisch mit Wein」を、協会活動の企画などのために「実行委員会」を継承して「月例懇談会」を参加者の便宜を図って毎月第3木曜日に開催してきました。しかしながら同一日に午前の「Stammtisch mit Zoom」や同日午後の「談話室」などと集中のためか、かえってそれぞれの会への継続参加が得られず、ご迷惑をお掛けすることになってしまいました。この事態を受けて、Stammtisch mit Wein と月例懇談会の名称・内容と開催日を4月より変更することにしました。「Stammtisch mit Zoom」と「談話室」はこれまで通りです。

Stammtisch について

Stammtisch mit Wein は Stammtisch として毎月第3土曜日の16:15～18:00に、事務所会議室にて開催します。かつてのように神戸在住のドイツ人・ドイツ留学生を交えて、毎回テーマを決めるか、缶ビールなどの飲み物や茶菓を伴うかなどの運営に関しては初回（4月15日）に参加者と共に決めたいと思います。奮ってご参加ください。

企画委員会について

これまで協会の主たる行事や催しの企画・準備・運営は、当初は各ドイツ語クラス(当時は各クラス10名以上)からの意見を元に、その後は実行委員会を設置して長くこの委員会が中心となって行ってきました。しかし実行委員の方々の高齢化とコロナ禍のために委員会は自然消滅の状態に陥りました。協会内に会員による委員会の設置は会報発行のための「編集委員会」が最初でしたが、これもいつしか編集内容決定と印刷発行を実行委員会が担当し、現在は編集を会長が、印刷発行を数名の会員有志の方で行っています。有志の方には心よりお礼を申し上げます。一民間の国際交流団体では会員皆様のボランティアのお気持ちに頼らざるを得ません。コロナ禍が一段落し、新事務所への移転を機に、是非とも協会の運営・企画に参加していただけないでしょうか。

4月より協会活動の企画・運営を担う「企画委員会」を設立します。

毎月第2土曜日15:00~17:00に協会会議室にて開催します。4月8日の第1回委員会にてこの委員会の活動内容などについて参加いただける方々のご相談を致します。

会報発行日の変更について

これまで会報は行事・催しの開催案内を優先して毎月第4月曜日に変更して発行してきました。しかし第3土曜日に開催される催しの報告など一月遅れになるなどの弊害も生じ、月曜日では編集上の支障も生じてきましたので、4月より毎月第4木曜日に変更します。これを機に是非とも印刷と発行にご協力をお願いいたします。印刷と発行の詳細については [事務室からのお知らせ](#)「会報印刷・発送ボランティア募集」をご参照ください。

事務所移転に伴う所蔵図書の処分について

協会事務所はすでにご報告のように6月上旬に移転の予定です。新事務所は現事務所とほぼ同程度の規模となります。現事務所は図書架が多くを占めています。これは、すでにご存じのように、神戸日独協会事務所は戦後ドイツ政府をはじめドイツから寄贈していただいた書籍のための「ドイツ図書室」として発足したためです。大震災被害により旧事務所を退去する際に近隣の日独協会などに多くを引き取ってもらいました。その後の移転の際にもレコード類をはじめ多くを処分してきました。会員には図書の貸出をしてきましたが、近年その利用は極めて少ない事情です。また新事務所では会員の方々の利便性のために書架を極力減少する予定です。

以上から協会では移転を機に、次の順で所蔵図書を処分することにしました。

- 1 ドイツ語講座とドイツ文化教室及び協会活動にとって不可欠な書籍を選別し、引き続き保存
- 2 会員等からの寄贈図書は寄贈者に返却
- 3 ドイツ関係機関・団体へ寄贈
- 4 会員の希望に応じた譲渡

(引取りに関しては、協会財政支援としてご寄附をお願いします)

- 5 業者への売却

現在新事務所の図書収容力の調査と保存必須図書の選別を行っています。図書をご寄贈いただいた方は、返却の有無を事務までお知らせください。会員のお引き取りについては後日ご連絡しますので、持ち出しはそれ以降にお願いします。

会員の広場

このコーナーは、会報を通して会員相互の交流をしていただくための「広場」です。ご投稿をお待ちしています。

(投稿規定: MSPゴシック12ポ、A4 1枚程度まで(多くの方に投稿していただくために、字数を厳守してください)、添付にて毎月第4月曜日までに事務局へ)

イエナ便り —日本への一時帰国—

会員 竹中 ららら(イエナ在住)

2月半ばから3月末にかけ、日本に一時帰国をしておりました。2月18日には、神戸日独協会会議室での「ドイツ語談話室」と「Stammtisch mit Wein」に招待して頂きました。「ドイツ語談話室」では『私の好きな芸術的催し物』というテーマについて、会員の皆様のお話を拝聴したり、イエナでの催し物について紹介したりしました。私はイエナ Stadtmuseum で2月から開始されている„Jena 1989 – Vor der Wende“という展覧会を楽しみにしています。ここで展示される多数のスナップショットでは、再統一直前の時期の街の様子—集会やデモ、政治的動乱—がイエナの写真家の視点からカメラに収められています。この展覧会に関連した催し(学術的な講演会、当時を体験した人を招いてのディスカッション、映画上映、歴史的場所を巡る市内ツアー)も同時に行われています。旧東ドイツ地域に住んでいると、DDR(ドイツ民主共和国)時代を体験した人の話を聞く機会もよくあります(例えば、当時は社会保障の一環として小学校の下校後の学童保育が充実していたという。だがそこでの教育には政府のイデオロギーが強く反映していた可能性がある。学童保育の設置自体は保護者の子育ての負担軽減に役立つが、教育への政治的影響については検討の必要がある)。これらについても今後ご報告ができればと思います。

「Stammtisch mit Wein」では、柘田義一会長をはじめ、協会の会員の皆様と日独の文化、神戸市とドイツの関わり、神戸市の新しい産業分野での取り組みについてお話ができ、とても素敵な時間を過ごすことができました。

さて今回の一時帰国ではドイツ人のパートナーも同行しており、約3週間日本に滞在しました。初めての日本訪問で、ドイツと日本の違いやそれぞれの国のよさに気付いたようです。まず日本の「街」については、神戸や京都のような大きな都市でもドイツの同規模の都市と比べて清潔で治安がよい印象をもった(日本では街に設置してあるゴミ箱の数が少ないが道に捨ててあるゴミは少ない。一方ゴミ箱を探すのに苦労する)。日本の「人」については、挨拶をすると笑顔で返してくれ嬉しかった。一方英語で話しかけた場合意思疎通に困難を感じた(学んだ外国語を日常的に応用する場面が少ないのが残念)。日本の「食事」については、日本料理の多様さに驚いた。魚や野菜を様々な形に調理した料理が多い(例えば日本の寿司は新鮮で種類も豊富、ドイツのそれとは味も見た目も異なる。大豆は味噌、豆腐、あげ、きな粉など形を変えて登場する)。ドイツで生活していると、国籍を問わず様々なきっかけを通して日本という国に興味を持ち、日本旅行をしたり日本語を学び始める人によく出会います。一方で日本に移住したい、日本語を上級レベルまで学びたいなど、具体的な計画をもって「日本社会」や「日本文化」に接しようとしている人にはなかなか出会いません。理由として考えられるのは、ヨーロッパ諸国と日本の地理的な距離、ヨーロッパ言語

と日本語の言語的な距離、それぞれの文化的な距離の存在ではないでしょうか。しかし技術開発、言語教育や人的交流に対する投資によってこれらの距離を心理的に縮めることは可能です。地理的な距離は物理的な移動を困難にしますが、インターネットやデジタル機器の発達で国際間のコミュニケーションを容易にして日独企業などの通信に役立っています。言語的な距離に関しては、専門教育を受けた日本語教師や工夫された教材が日本語学習の負担を軽減するでしょう。文化的な距離に対しては、どの文化圏の人がどのような文化的差異を感じやすいかについての研究を参照することで、カルチャーショックなどの心理的不安を和らげることができます。将来的に日独間の交流がさらに活発になることを望みます。私も外国語教育の分野で日独の文化仲介に貢献していきたいです。

連載 ドイツ語閑話

第5回 ドイツ語学習とラテン語～総領事のご助言を受けて～

会長 柘田 義一

会報前月号のドイツ語談話室の報告に、参加されたエバーツドイツ総領事様より「ドイツ語を学ぶ上で、ラテン語の知識がとても役立つと思う」とのお話があったとの報告がありました。この会に参加できなかったために、どのような経緯でお話しされたのか、参加者の反応はどうであったのかはわかりませんが、協会のドイツ語講座を担当している者にとっては、良きご助言をいただいたと感謝しています。

2019年5月以降コロナ禍に関する記事優先のためにこの連載を中断していましたが、連載の再開にあたり、誠に僭越なことですが、今回はゲルマニストとして総領事のご助言を敷衍させていただきます。

すでにご存じのようにドイツ語とラテン語は同じ系統の言語と見なされて「インド・ヨーロッパ語族 Indoeuropäische Sprachfamilie」という同じ言語グループに属しています。「ドイツ deutsch」の語源をご存知ですか。deutsch という語は中世の時代に古代ドイツ語の名詞 diot(民衆)の形容詞形 diutisc(民衆の)のラテン語形 theodiscus として現れました。中世の時代ヨーロッパでは広くキリスト教会の聖職者たちが文化を担っていました。聖職者及び知識人が使用していたのはラテン語でした。そして一般民衆はそれぞれゲルマン族の部族語(バイエルン語、フランク語など)を使用していました。聖職者のラテン語に対して「一般民衆の言葉」という意味で「ドイツ」が使用されるようになりました。当時の一般民衆は聖職者のもたらす文化と共に彼らの言葉、ラテン語の影響を強く受け続けたことは想像に難くはありません。それは日本においても奈良時代以降の遣隋使・遣唐使や中国に渡った僧などから、また中国から日本へもたらされた文物を通して古代中国の「唐」の言葉の影響を強く受けました。それ以後我々は漢籍から漢詩等を通して表現法や「矛盾」等の熟語等々現在まで特に「唐」の言葉の影響を受けています。ドイツ人にとってラテン語はまさにこれと同じ関係なのです。我々日本人にとって言葉の基盤に古代の中国語があるように、ドイツ人の言葉の基盤にはラテン語があるのです。

古代ローマ時代ローマ帝国の拡大及び文化の発達と共に「ラテン文法」が成立しました。近世にな

ヨーロッパ各国は「ラテン文法」に倣って自国語の文法を編集しました。ドイツではグリム兄弟の兄ヤーコブ・グリムによって「ドイツ語文法」が完成されました。ドイツ語とラテン語は同じ言語グループ「インド・ヨーロッパ語族」ですので、語形変化 (Flexion) や格 (Kasus) による表現など多くの文法上の構造と特徴を共有しているのです。ドイツ語教科書の冒頭の A,B,C からしてこれをアー、ベー、ツェーと読むのはラテン語での読み方が元になっているのです。英語でエイ、ビー、スィーと読むのは中世の時代に英語で大母音推移と呼ばれる音韻変化が起こり長母音が舌を高め発音されるようになり、[á:]が[é:]に変わり更に[é:]になり[bé:]が[bí:]となり、英語だけがアルファベットの読み方が異なるようになったのです。ドイツ語を英語と比較すると相違する点が多いのですが、これは英語が動詞の主語による変化、名詞類の性・格による変化など多くを捨ててしまったことに起因します。しかしドイツ語に残る語形変化、格の様々な用法、sich を用いる再帰的表現等々の源泉はラテン語にあるといっても過言ではないでしょう。しかしドイツ語ではこれらはかなり簡素化されていますが。ドイツ語の不明な点や難解な点は中世ドイツ語に辿れば多くが理解出来るように、更にラテン語を参照するとヨーロッパ語の神髄に迫ることが出来ます。

ラテン語は文法書によって独学でも学習が出来ます。かなりの根気が要りますが。総領事のご助言を機にラテン語を始めてみませんか。私も、数年前ドイツの書店のレクラム文庫の書架でたまたま見つけた Tacitus タキトゥスのラテン語・ドイツ語版の「Germania ゲルマーニア」を購入し、帰国後に読み始めました。が、忙しさにかまけ書架に眠っていた「ゲルマーニア」を総領事のご助言を得て再び手に取りました。

ドイツ語談話室

第220回ドイツ語談話室

日時：2023年2月18日(土) 14:00~16:00

場所：神戸日独協会会議室

テーマ：私の好きな芸術的催し物

今回の司会は原田耕作氏が担当し、初めに、当ドイツ語談話室の発足時からのメンバーであった北沢誠太郎氏が、昨年12月に亡くなられた事を報告し、参加者全員で黙とうを捧げた。

次にテーマに戻り、司会者の好きな催し物はクラシック音楽のコンサートであることを話した。主としてヨーロッパの作曲家達の作品が演奏されるコンサートによく参加する。また、NHKラジオで毎日曜日の朝8時からある音楽番組は、主としてクラシック音楽で、毎週聴いている。

今回のドイツ語談話室に初めて参加された若い方お二人に自己紹介をして頂いた。お二人ともにドイツ、イエナの大学に学んでおられるとのお話だった。

以下に、参加者の皆さんの発言の一部を紹介する：

- 旧ソ連時代の、厳冬期のモスクワ、ポリシヨイ劇場でバレエ・ジゼルを見てとても感動した。終演後タクシーでホテルに戻ろうとしたが、タクシーが来ない。凍てついたモスクワで歩いてホテルまでは本当に厳しかったのを忘れられない。

- バレーを見るのがとても好きだ。子供の頃はバレリーナになるのが夢だった。バレーにはバランスが大切で、それは今も生活に役立っている。
- 園芸が大好き。我が家の庭では自然の移り変わりが楽しめる。木々には季節ごとの鳥たちがやってくる。メジロ、ヒヨドリ、キツツキ、等々とても賑やかである。
- 音楽のコンサートが好きで、良く参加する。特にイエナフィルハーモニーが開催するコンサートにはよく聞きに行く。
- 1950年代のソウルミュージックのファンであり、ライブコンサートによく参加した。ロックバンドやジャズバンドも好きで、神戸のジャズフェスティバルにもよく参加する。
- バロック音楽が好きで、バロック音楽のコンサートがあれば良くコンサート会場に行く。
- 街のぶらぶら歩きが好きで、良く出かける。特に知らない街のぶらぶら歩きはとても楽しく、いろいろな発見があつて興味がわく。
- いろいろな音楽祭に参加するのが好きで、特にクラシック音楽のコンサートに良く行く。ジャズフェスティバルも好きだ。ヨーロッパの街角でよく見かけるストリートミュージックも楽しい。
- 小さいころからピアノとバイオリンを習っていたこともあり、音楽を聴くことは趣味の一つ。良く音楽のコンサートに参加している。

今後のドイツ語談話室の予定

第221回 2023年3月18日(土)14~16:00 テーマ:日本の新しい18歳成人の日について

第222回 2023年4月15日(土)14~16:00 テーマ: 早春

Protokoll der 220. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag, 18. Februar, 2023, 14 bis 16 Uhr

Thema: Welche künstlerischen Veranstaltungen besuche ich gerne.

Diese Mal hatte Herr Kosaku Harada die Gesprächsleitung und berichtete zuerst, dass Herr Seitaro Kitazawa, der von Beginn an Mitglied der Deutschen Gesprächsrunde war, im letzten Dezember verstorben ist. Zum Gedenken wurde eine Schweigeminute abgehalten.

Der Gesprächsleiter sprach daraufhin zum heutigen Thema, dass er Konzerte mit klassischer Musik gern hat, besonders solche mit Musik europäischer Komponisten. Er hört jeden Sonntag um 8 Uhr NHK Radio, wo um diese Zeit meist klassische Musik gesendet wird.

Diesmal kamen eine neue Teilnehmerin und ein neuer Teilnehmer, die sich kurz vorstellten. Sie studieren beide an der Universität Jena.

Hier einige der Wortmeldungen zum Thema:

-Ein Teilnehmer besuchte noch zur Zeit der Sowjetunion in einem rauen Winter das Bolshoi Theater in Moskau. Am Programm stand "Giselle", er war begeistert. Danach wollte er mit dem Taxi zum Hotel fahren, konnte aber keines bekommen. So musste er

in kalter Winternacht in Moskau zu Fuß zum Hotel laufen. Das war ein unvergessliches Erlebnis.

-Eine Teilnehmerin sieht gerne Ballettaufführungen. Als Kind wollte sie Ballerina werden. Beim Ballett ist die Balance besonders wichtig. Dieses Gefühl für Balance ist auch im Alltagsleben sehr von Nutzen.

-Eine Teilnehmerin beschäftigt sich mit Kunstgärtnerei. In ihrem Garten kann sie das Jahr über den Wechsel der Jahreszeiten genießen. Verschiedene Vögel, jap. Brillenvögel, Braunohrbülbül, Spechte usw., besuchen ihren Garten.

-Eine Teilnehmerin mag Musik und geht gern in Konzerte. Besonders gern besucht sie Konzerte der Jena Philharmonie.

-Ein Teilnehmer ist ein Fan von Soul-Musik aus den 1950er Jahren. Er mag auch Rock und Jazz und besucht gern Live-Konzerte, wie z.B. die Jazzfestivals in Kobe.

-Eine Teilnehmerin hört gern Barock-Musik und besucht auch gerne Konzerte mit barocker Musik.

icht kennt, und wo sie viele neue Sachen entdecken kann.

-Noch eine weitere Teilnehmerin mag Musikfeste, besonders solche mit klassischer Musik. Aber sie mag auch Jazzfestivals, und findet Gefallen an den Straßen-Musikern in europäischen Städten.

-Eine Teilnehmerin lernte als Kind Klavier und Geige. Sie interessiert sich auch heute noch sehr für Musik und besucht gern Konzerte.

Nächste Treffen:

Samstag, 18.März 2023, 14 bis 16 Uhr, Thema: Die neuen Volljährigkeitsfeiern in Japan nach Herabsetzung des Volljährigkeitsalters von 20 auf 18.

Samstag, 15. April 2023, 14 bis 16 Uhr, Thema: Der Vorfrühling.

Stammtisch mit Zoom

高校生にドイツ語を教える: 井川伸子

神戸日独協会会員の井川伸子さんは兵庫県立西宮高校音楽科でドイツ語を教えています。そのきっかけは全くの偶然からでした。2018年の2月に六甲のユニオンチャーチでコンサートがあり、その後のドイツ人たちとのおしゃべりに井川さんも加わっていると、あるドイツ人女性から「あなた、それだけできるのなら、ドイツ語の先生をやってもらえませんか?」といきなり頼まれました。聞けば、その方は県立西宮高校音楽科でドイツ語を教えているのだけど、6月に帰国する予定で、後任を探しているとのこと。井川さんは上智大学でドイツ語の教職課程を取り、教員免許を持っていますが、教えたことは一度もなく、迷いましたが、そのドイツ人が困っているのを見て、自分もクリスチャンだし、ここで会ったのも何かのお導きかも…と思って引き受け、早速4月から教えることになりました。

県立西宮高校は1学年9クラスで、その内の8クラスは普通科ですが、1クラスが音楽科で、音楽大学を目指す優秀な生徒たちが県下から集まっています。音楽科の生徒たちは、普通の修学旅行の代わりに、2学年の秋に約1週間のドイツ研修旅行に行き、Hamburg の Konservatorium (音楽学校)で専門的な指導を受け、Berlin、Dresden などを回ります。せっかくドイツに行くのなら少しでもドイツ語ができるほうが良いと、10年程前から、2学年の時だけ1年間ドイツ語がカリキュラムに取り入れられました。

現在、音楽科は1クラス31人で、そのうち女子が29人、男子が2人です(男子は多い年でも6人くらい)。英語が得意な人もいれば、苦手な人もいる中で、ドイツ語を教えるのにいろいろ工夫します。現在使っているのは Ideal という教科書ですが、いきなり文法から入るのではなく、まず教科書を渡して、英語と違う点を見つけてもらいます。すると大文字で書かれている単語(名詞)や、英語にないアルファベットの文字(ウムラウトや ß)に気が付き、ドイツ語に興味を持ってもらいます。また、『映像で見るドイツ』というDVDを見せて、ドイツの文化、町並み、飲食、スポーツなど、色々な面からドイツという国にも関心を持ってもらいます。すると全員が、ドイツに行きたいと意欲的になってくれます。

とは言っても語学を覚えるのは大変です。例えば名詞の性は男性、女性、中性の三つがあり、犬(Hund)が男性名詞で猫(Katze)が女性名詞くらいは何となくいいとしても、スカート(Rock)が男性名詞でズボン(Hose)が女性名詞は覚えるしかありません。男性名詞が er になり、女性名詞が sie になるのも、慣れるまでは難しいです。ドイツ語は、er=彼、sie=彼女だけではないのです。また、語学は積み重ねですから、自分も学生時代にそうだったように、毎回ミニテストをやり、それをノートに貼るようにします。ノートに貼ることで何ができて何ができなかったか、後から復習することができます。機会があれば、ドイツ語のネイティブの方を呼んで、話す機会を設けたりもします。

丁寧に教えているので、週二回の授業で教科書に20課ある中で7課くらいまでで終わってしまいます。ウィーン大学に入りたいので個人的に教えてくださいと、他校の生徒から頼まれたこともあるそうです。

(理事 押尾 愛子)

Stammtisch

4月の Stammtisch (名称・日程変更)

日時 : 2023年4月15日(土)16:15~18:00

場所 : 神戸日独協会会議室

話題 : 今後の Stammtisch について

ドイツでの Stammtisch のようにお好きな飲み物と茶菓を取りながら、気楽に会員同士のご歓談をお楽しみいただく会です。奮ってご参加ください。

再開第1回目では、毎回テーマを決めるか、ネイティブの方とどのように交流するか、会場は、飲食は、など今後形式・運営方法について協議をします。

出席いただける方は、事務室へ電話・メールにてご連絡ください。当日参加も可。

4月の企画委員会開催のお知らせ(名称・日程変更)

この会は協会と会員との交流のための会です。4月より「月例懇談会」を名称・内容を変更して新たに「企画委員会」として開催します。是非とも参加し、協会の運営や企画などにご意見を下さい。

日 時： 2023年4月8日(土)15:00～17:00

場 所： 神戸日独協会会議室

話 題： 協会事務所の移転と移転後の事務所の形態及び新年度の活動について。

大事なテーマですので是非ともご参加いただき、ご意見をお願いします。

ご出席いただける方は、事務室へ電話・メールにてご連絡ください。当日参加も可。

事務室からのお知らせ

会報印刷・発送ボランティア募集

会報の印刷と発送を手伝ってくださる方を募集しております。是非ともお手伝いをお願いします。4月より印刷と発送の日を変更します。次回の印刷と発送は4月27日(木)を予定しています。お手伝いいただける方は事前に事務室へご連絡下さい(TEL 078-230-8150)。

印刷： 兵庫県国際交流協会作業室(神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号

国際健康開発センター2階、県立美術館西隣)にて、10:30より1時間半程度

発送： 神戸日独協会にて、12:00～

これからの神戸日独協会の催し

日 時	催 し	会 場	申込〆切 など
4月8日(土) 15:00～17:00	企画委員会	神戸日独協会会議室	当日参加可
4月15日(土) 14:00～16:00	ドイツ語談話室	神戸日独協会会議室	当日参加可
4月15日(土) 16:15～18:00	Stammtisch	神戸日独協会会議室	当日参加可